広見公園内に 郷土博物館を建設

オープンは56年４月の予定

富士市郷土博物館の起工式が、７月７日、市内伝法66－2(広見公園内)で行われ、56年４月オープンをめざして突貫工事がすすめられています。

建物は、工費２億600万円をかけて鉄筋2階建て延べ面積約2,000平方㍍、展示室２、特別展示室、会議室２、収蔵室１、その他調査研究室、事務室などがあります。

天間沢・東平遺跡の出土品を展示

特別展示室は、国宝級のものから重要文化財、コレクション、資料などが展示されます。展示室には、富士山のフモトで生活してきた先人たちの産業文化、民俗資料をはじめ、考古資料の天間沢、東平遺跡や伊勢塚古墳などの出土品約3,000点と歴史資料、古文書など約3,000点が展示されることになっています。

また、**地場産業の製紙コーナー**も設けられ、ここでは手すき和紙から機械すきまでの歴史と現況などが、一目でわかるよう、いろいろな紙などが紹介されます。

郷土博物館の完成予想図

建設費210億円を投入

待ち遠しい西富士有料道路

西富士一般有料道路は都市計画道路の左富士臨港線との接続(乗り入れ)が、このほど正式にきまり、総額210億円の建設費を投入して、57年３月開通をメドに突貫工事が行われています。

計画では、市内伝法地先の東名インターチェンジ南200㍍を起点に、富士宮市小泉地先の富士宮バイパスまで延長6,900㍍（富士市区分6200㍍）を結ぶもので、道路の幅員は22㍍の４車線になります。

さらに、国道139号線（吉原大月線）を立体交差で横断し、東名富士インターおよび都市計画道路の田子浦臨港線にも乗り入れができることになっています。

用地買収は約80％完了

用地買収は、53年度末、すでに買収面積の28万8,400平方㍍のうち約80㍍にあたる22万2,400平方㍍の買収が終り、残る6万6,000平方㍍は54年度継続事業で行われます。

そこで、54年度事業は、41億円の予算をかけて残りの用地買収と、この8月～9月に伝法地区を皮切りに、12月は久沢地区、55年３月は天間地区にわけてそれぞれ基礎工事（土工事）が本格的に着工の運びになります。

したがって、実質総事業費は約50億円にのぼるものと見られています。

これで市内の交通体系は大きく変り、一歩も二歩も前進します。